

THE RECORD 12

1999
No.481

- 独占禁止法の「概要とQ&A集」改訂版発行
- レコードファン感謝祭廃盤特別謝恩セール開催
- アジア知的所有権シンポジウム '99開催
- 統計資料—レコード生産の推移 '71～'98

独禁法の概要～改訂版～発行

独占禁止法の「概要とQ & A集」 ～改訂版～発行

当該独禁法の「概要とQ & A集」の初版は、平成5年6月に発行しましたが、その後の法の改正や公正取引委員会（以下公取委と称します）の法制度運用に関する諸指針の改定や再販制度の検討経緯等を踏まえ、ここに初版よりも20ページ追加した改訂版（A4-60p）を発行することになりました。

ご承知のとおり独占禁止法は、私たちのレコード産業とは深い関わりがあり、特にここ数年来再販制度については、公取委や行政改革委員会（以下行革委と称します）において見直しが進められ、当レコード産業もこの対応を進めてきたところです。

この再販制度の検討経緯等については、本文の中で詳しく説明しておりますが、平成10年3月末に公取委は、行革委の最終意見書を尊重する閣議決定並びに「再販問題検討のための政府規制等と競争政策に関する研究会（規制研）」からの提言を踏まえて、以下の取り扱いとする結論を得た旨公表しました。

概要：「著作物（書籍・雑誌、新聞、レコード盤・音楽用テープ・音楽用CD）の再販制度については、競争政策の観点からは廃止の方向で検討すべきだが、文化の振興・普及面も配慮する必要があるので引き続き検討を行い、一定期間経過後（平成13年3月末を目途）に制度自体の存廃について結論を得るのが適当である。また、関係業界に対して、消費者利益確保の観点から、再販制度の弾力的な運用等を求める。」

また、公取委から公表されている「流通取引慣行に関する独禁法上の指針」や平成7年10月に改訂された「事業者団体の活動に関する独禁法上の指針」は、わが国の流通取引慣行に関する内外の批判や意見を踏まえ、公正かつ自由な取引活動を推進するために、事業者や事業者団体による違法な活動を未然に防止するために作成されたものです。

しかしながら、これらの指針は産業界全般に亘り作成されたものであり、難解な事項も多いところから、当レコード産業として必要不可欠な問題について、身近で平易な手引書として本書を作成しました。

レコード（音楽用テープ・音楽用CD等を含む、以下レコードと称する）は著作物の複製物として、また文化商品として特異な位置付けが行われていますが、一般日常商品と同様流通取引に供されるものであり、

これらの指針を遵守することが要請されています。

この機会に本書を活用していただき、日常業務の中で法に反するような事態を起こすことのないよう、独占禁止法への理解を深めていただきたいと思います。

本書第1章の「独占禁止法の概要」項目では、

1. 独占禁止法の主旨
2. 規制内容
3. 事業者団体の行為
4. 違反に対する制裁
5. 違反行為に対する罰則
6. 違反行為の処理手続
7. 公正取引委員会の組織等について分り易く解説しています。

第2章「Q & A集」では、レコード業界に関連する以下の質問項目の回答や事例を掲載しています。

- Q 1 「営業活動の中でカルテルに該当するものは？」
- Q 2 「小売店への協賛金等の取決めは？」
- Q 3 「アーティストの契約条件の取決めは？」
- Q 4 「音源許諾料の申合わせは？」
- Q 5 「再販契約のないレコード安売店への対応は？」
- Q 6 「再販契約店の安売りへの対応は？」
- Q 7 「レコードの再販価格を守らせることは？」
- Q 8 「再販切れ商品の不当廉売への対応は？」
- Q 9 「再販切れ商品の価格相談への対応は？」
- Q 10 「安売店に対して、取引拒絶できますか？」
- Q 11 「情報の交換に基づく出荷制限は？」
- Q 12 「貸レ店の販売市場参入を規制できますか？」
- Q 13 「宣伝販促での注意事項は？」
- Q 14 「小売店との取引拒絶、制限とは？」
- Q 15 「新規取引の申出を拒絶することは？」
- Q 16 「小売店の扱い商品や地域等の制限とは？」
- Q 17 「小売店からの協賛金依頼は？」
- Q 18 「小売店から商品の即納要請があった場合は？」
- Q 19 「小売店から社員の派遣要請があった場合は？」
- Q 20 「TV局からコンペ賞品提供要請があったが？」
- Q 21 「小売店の事業活動を制限するレポートとは？」
- Q 22 「コーナー設置を条件としたレポートは？」
- Q 23 「占有率レポートは？」
- Q 24 「累進レポートは？」
- Q 25 「CDと他の商品をセット発売してもよいか？」
- Q 26 「良い商品を廉価販売してはいけないのか？」
- Q 27 「取引高で取引条件に差をつけてよいか？」
- Q 28 「協力店へ、他店より低い仕切は問題か？」
- Q 29 「組合等行事への協賛金を申合せるとは？」

- Q30「放送局主催の音楽祭参加可否の申合せは？」
 Q31「協会で特定店との取引制限の申合せは？」
 Q32「協会で特定店の債権保全の申合せは？」
 Q33「CD購入者にコンサート券を提供することは？」
 Q34「CDの3対1セールは？」
 Q35「カラオケや演奏もの商品の表示規制は？」
 Q36「サービス券等の発行を規制できますか？」
 Q37「海外委託プレスCDの原産国表示は？」
 Q38「添付物製版単価を完了後に決めてよいか？」
 Q39「映画チケットを下請業者に購入要請できるか？」

第3章のレコード等の再販問題検討経緯では、以下の項目について解説しています。

- 〔Ⅰ〕'98/3公取委の著作物再販取扱い見解。
 〔Ⅱ〕再販制度の経緯他…昭和29年9月にレコード等の再販制度が法的に是認されてから、今日まで「再販是非」の検討経緯を時系列で掲載。
 〔Ⅲ〕弾力的運用等取組み状況について
 平成10年12月公取委は、関係業界（出版、新聞、レコード）の再販制度の弾力的運用取組み状況を以下の通り公表しました。

1. 書籍・雑誌

一部の出版物の①時限再販（一定期間経過後に非再販化）の導入、②ブックフェア等期間限定のバーゲンセール、③部分再販（非再販）書籍の発行、④雑誌の長期購読割引、⑤一部書店でのバーゲンコーナー設置等に取組んでいる。

<注>'99/10以降、出版物小売業の景品規制の緩和（公正競争規約の改正）を次の通り実施した。

- ・総付景品：限度額を価格の5%（旧3%）とした。
 …<景表法では10%>
- ・一般懸賞：価格の20倍又は10万円（旧1万円）のいずれか低い額。<景表法で定める基準まで引上げ>

2. 新聞

①景品規制の見なおし='98/5以降、月間購読料の8%又は3ヵ月購読料の8%まで解禁した。又新聞社独自のクイズ等の懸賞は'98/9以降景表法の制限金額の半額（5万円）まで解禁した。

②その他新聞セールス方法の改善やコンビニでの一般紙取扱い等に取組む。

<注>'99/9以降、「新聞特殊指定」の見直しを行ない、学校教材用や大量一括購入など正当な理由があれば発行本社が値引できることとした。

3. レコード（CD、MTを含む）

- ①時限再販期間の更なる短縮…シングル盤は従来の2年間を1年もしくは6ヵ月間に短縮、洋楽アルバムも、一部の社は1年間もしくは6ヵ月間に短縮、②インディーズ・レコードの非再販CDの発売、③サービス券等の取扱い、④廃盤セールの拡大等に取組んでいる。

【注】公取委は当該報告書の中で、「各社の自主的な判断で改善等取組が進められるようになってきたことは評価できるが、今後どの程度各発行者の自主的な判断により消費者サービス拡大の為の取組が行われるかが問われる。…レコード業界においては、今後どの程度価格設定の多様化（殊に邦楽新譜アルバム）を図り得るかが重要な課題になる。」旨指摘しています。

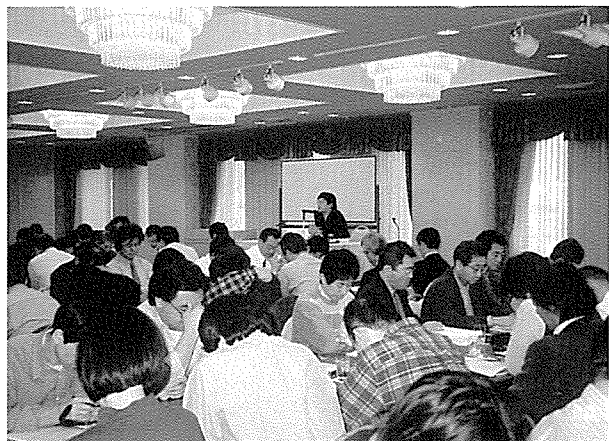
【再販制度に関する考え方について】

公取委から求められている上記著作物の再販制度の弾力的運用は、再販はずしを前提としたものではないこと。かかる弾力的な運用によって、広く国民から「再販があっても問題ない」と支持されれば、今後とも存続の可能性が高いと言えます。

又、この弾力的運用は、公取委から「各社の個別対応であること」が強く求められています。万一かかる再販制度の廃止もしくは法的範囲の限定明確化をされる場合には、必ず国会決議（独禁法の改正）が不可欠であること等を認識しておく必要があると思われます。

【説明会の開催】

当該～改訂版～発行に当たり、11月30日に中央会館で説明会を開催しました。当日は当協会の顧問弁護士である石田英遠先生からの講演、そして会員社からの参加者（140名）を交えた熱心な質疑応答が行なわれました。



不正商品対策協議会・その他

シンポジウム、IFPI理事会 アジア知的所有権シンポジウム開催

著作権と商標権に関する8団体で構成する不正商品対策協議会（不正協）は、11月26日、都ホテル東京において「アジア知的所有権シンポジウム'99～21世紀、新たなる知的所有権財産の挑戦～」を開催しました。同シンポジウムは、基調講演と3つのセッションから構成され、各部の概要は以下のとおりです。

<基調講演>

警察庁国際部長であり、且つ国際刑事警察機構総裁である兼元俊徳氏から、「国際組織犯罪対策の動向／国連、G8サミットを中心として」とのタイトルで行われ、従来型の犯罪に加え、コンピュータ・ネットワーク利用の犯罪が増加し、更に知的所有権犯罪に対してG8サミット・プロセスを通じた国際供旅行の枠組みを構築していく必要性に言及されました。

その中で、不正協の横断的な活動が国際的レベルに拡大されることへの期待が表明されました。

<第1部>「音楽をめぐる侵害実態とその対策」

IFPI本部から業務部長のマイク・エドワーズ氏を招き、パッケージの海賊版からネット海賊への移行、その時々に応じた対策、SDMIプロジェクトの現状の講演に続き、MP3違法音楽ファイルのデモンストレーションを行った後、モデレーター（RIAJ専務理事、木村三郎）の進行により、エドワーズ氏、石野利和氏（文化庁国際著作権課長）、加藤衛氏（JASRAC常任理事）によるパネル・ディスカッションが行われました。

<第2部>「日本における知的所有権侵害の実態とその対策」

海賊版CD、海賊版ビデオ、偽ブランドなど権利侵害の実態と対策について、モデレーター（前田哲男弁護士）の進行により、倉田潤氏（警察庁生活経済対策室長）、川崎進二郎氏（大蔵省関税局知的所有権財産専門官）、米津潔氏（特許庁模倣品対策室長）によるセミナーが行われました。

このセッションでは、実際に取締りを行っている執行機関における具体例、民間との協力体制などについて解説が行われました。

<第3部>「アジア地域における不正商品排除と知的所有権財産の保護活動」

モデレーター（遠山友寛弁護士）の進行により、パメラ・パスマン氏（BSA＝ビジネス・ソフトウェア・アライアンス副会長）、ロドニー・ツイ氏（IFPIアジア地域執行担当者）、マイケル・エリス氏（MPA＝モーション・ピクチャー・アソシエーションアジア太平洋地域代表）、ローラン・デュボワ氏（UDF＝ユニオン・デ・ファブリカン日本代表）、辻本憲三氏（ACCS理事長・カプコン社長）、ジョン・ダッキン氏（ナイキジャパン）を迎えてネル・ディスカッションが行われました。

その中で、各パネリストそれぞれの立場における執行対策をどのように行っているか、知的所有権を如何に保護していくかをテーマにディスカッションが行われたほか、来場者からの意見を聞くなど、パネリストと来場者が一体となったディスカッションとなりました。

閉会に際し、不正協のような団体がアジア各国に設立され、アジア・レベルでの知的所有権保護対策が積極的に進められていくよう、不正協としても働き掛けていくことの決意表明が為されました。

尚、このシンポジウムは昨年に引き続き第2回目となりますが、前回は大きく上回る400人を超える来場者を数え、成功裡に終了しました。

IFPI中央理事会開催

11月3日、香港において、IFPIの中央理事会が開催されました。

世界のレコード産業にとって、海賊CD問題とインターネット上のMP3違法音楽ファイル問題への対策が急務であることが確認され、それぞれについて、従来にも増した積極的な対策を進めていくことが合意されました。

特に、世界レベルでは組織犯罪による音楽の海賊版対策が求められているため、IFPIの各国グループを通じて有効な対策が必要とされます。

CD海賊については、正規CD需要を上回るCDの生産能力に対してSID（製造識別）コードの法的レベルでの義務づけが要求され、MP3違法音楽ファイルについては、新しい検索方法の導入の必要性が確認されました。

FMフォーラム報告

第6回FMフォーラム開催

第6回FMフォーラムが、11月5日に昨年の東京国際フォーラムから八芳園に会場を移して実施されました。

今回は、開催目的の重要な部分を占める人と人との交流に重点を置き、より参加しやすくとの視点から今までの2日間を1日に凝縮する事としました。

当日は、まず進行役のワーナーミュージック・ジャパン (WJ) 喜久野シニア・エグゼクティブ・バイスプレジデントから今日1日のスケジュール並びに注意事項の連絡があった後、全体パネル会議からFMフォーラムは開始されました。

全体会議はテーマを『FMにおける洋楽ビジネスの可能性』と題して、青山 (FM TOKYO)、浅地 (bay-fm)、常行 (ZIP-FM)、高瀬 (FMノースウェーブ)、内海 (J-WAVE)、友田 (InterFM) の各氏が2時間に亘り、かなり辛辣な発言も含めて、FM局の立場から洋楽ビジネスの可能性について、議論が繰り広げられました。

その後、恒例のビデオ・プレゼンテーションが4分間ずつツイーストウエスト社 (EW) から始まり、ビクターエンタテインメント (V)、東芝EMI (TO)、マーキュリー・ミュージックエンタテインメント (MME)、ユニバーサルビクター (UV)、BMGファンハウス (BMG)、ポニーキャニオン (PC)、ポリドール (PO)、キングレコード (K)、ソニー・ミュージックエンタテインメント (SME) 社まで繰り広げられ、現在並びにこれからの各社の押しものが勢揃いしました。

引き続き15分間の休憩を挟み、次の6つのパネルに別れ議論を進めました。

・FM局とディーラーの相乗効果

パネリスト (敬称略) :

常行、高瀬、西坂 (FM石川)、
中島 (ヤマチク)、神野 (玉光堂)、
森部 (グルーヴ)

・FM業界言いたい放題

パネリスト (敬称略) :

浅地、村上 (ユナイテッド・プロジェクト)、岡田 (InterFM)

・音楽デジタル配信の現実味と未来図

講師 (敬称略) : 高堂 (SME)

・日本独自のヒット作りとインフラの整備

パネリスト (敬称略) :

高橋 (ネットワーク・レコード)、

植田 (V)、喜久野、谷口 (エイベックス=AVT)、三ツ木 (SME)、
角間 (TO)

・楽曲 (シングル・ヒット) は必要か? 2000年洋楽マーケティングの在り方

パネリスト (敬称略) :

新井 (日音)、小田切 (FM大阪)、
佐々木 (SME)、杉山 (ZIP-FM)、
北澤 (フジパシフィック音楽出版)

・邦楽のヒット・メーカーが実践するFMの絶大なる有効性~今、洋楽が抱える課題~

パネリスト (敬称略) :

井ノ口 (アンリミテッドレコード)、
杉山 (J-WAVE)、友田、斎藤 (TO)、
山中 (アロハ・プロダクションズ)、
長谷 (WHAT'S IN?), 佐々木 (TO)

その後、マーケット&ミーティングに移り、日頃お会いできない地方FM局の方々を含め名刺交換・挨拶が行われ、7時からパーティに移りました。両会場出入り口が面している事も有り、両会場を行き来する参加者が、ライブが始まるまでの間、多数見受けられました。

ライブ開始時にはマーケット&ミーティング会場も閉鎖され、全員でステージに声援を送りました。

各出演者のパフォーマンスの前に、所属レコード会社のビデオ・プレゼンテーションが有り、その中で出演者が紹介され、パフォーマンスが行われました。出演者は、マイリーン (AVT)、ショウラ・アーマ (WJ)、レア・ブレンド (ヒートウェーブ: コロムビア=C) の3アーティストでした。

終了後しばらくの歓談の後、J-WAVE斎藤制作部担当部長の中締めが有り、場所を都ホテル東京へ移して、懇親会が行なわれました。



廃盤セール・その他

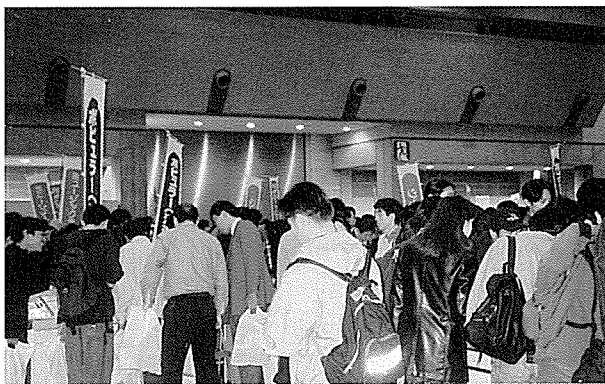
レコードファン感謝祭 「廃盤特別謝恩セール」開催

11月20日（土）、21日（日）の2日間にわたり、当協会加盟21社主催、当協会、日本レコード商業組合、全国レコード卸同業会協賛、社団法人日本オーディオ協会協力による「新品CD大ディスカウントフェア～レコードファン感謝祭'99廃盤特別謝恩セール～」が、東京・江東区の東京ビッグサイト西1ホールにて盛大に開催されました。

このセールは、レコードファンへの感謝の意味を込めて、今年1年間に廃盤となったCD、レコード、ビデオカセット、ビデオディスク等を一同に出品、70%の割引で販売するものです。平成4年度より毎年開催されており、今年で8回目となりました。

今回は日本オーディオ協会主催のオーディオエキスポと同時開催で、出品タイトル数は約8,500タイトル、出品数は約30万枚でした。また、昨年同様輸入盤と発売後2年を経過した時限再販商品の特設コーナーも設置されました。

両日とも穏やかな好天に恵まれ、熱心なファンが開場前から会場に集まるなど、多くのレコードファンが来場されました。入場者数は、初日6,412人、2日目が4,819人の合計11,231人でした。売り上げは、初日が4万6,265枚／3,622万4千円、2日目が1万4,974枚／1,169万円、の合計6万1,239枚／4,791万4千円でした。



カラオケ対策委員会報告

① '99トーク&コンサートツアー

「歌・想い…そして出逢い」実施要領

カラオケ対策委員会では、「不法録音」を無くすために、著作権思想の普及と啓蒙を目的にさまざまな広報活動を展開しておりますが、その一環としてカラオケ教室の主宰者・講師を無料で招待して、下記の内容による啓蒙キャンペーン・ツアーを実施します。

前号でも一部お伝えしましたが、松山、宇都宮、静岡の出演者及び内容、開場・開演時間が次のようになりましたのでお知らせします。

【コンサート内容】

●カラオケ、この10年を振り返る

カラオケがブームではなくひとつの文化として定着したこの10年の流れを、世相やその時々ヒット曲と共に振り返ります。好きだった歌がああ頃の思い出も連れてきます。

●作詞家・作曲家のおもしろ裏話、そして、ミニコンサート

作り手の思いがたっぷり詰まって曲は生まれます。曲ができるまでの裏話、隠されたエピソードなど、歌づくりの心に触れるトークショー。作り手と歌手の関わりなども交えた、ミニコンサートもお楽しみいただけます。

●出演者を交えた、カラオケレッスン

作詞家、作曲家、そして歌手と、プロ中のプロによるカラオケレッスンは、歌うヒントがたくさん詰まっている歌唱指導も体験できます。

【日程・会場】

12月6日（月）松山市・松山市民会館中ホール

・開場 17:30／開演 18:00（500名招待）

・出演者…遠藤実（作曲家）、松井由利夫（作詞家）、鈴木淳（作曲家）、いではく（作詞家）、長谷川千恵（歌手） 進行：柳家さん喬

12月16日（木）宇都宮市・栃木県総合文化センターサブホール

・開場 17:30／開演 18:00（400名招待）

・出演者…船村徹（作曲家）、市川昭介（作曲家）、黒木梨花（歌手）、川久保由香（歌手）、静太郎（歌手） 進行：柳家さん喬

12月17日（金）静岡市・メディアホール

・開場 17:30／開演 18:00（340名招待）

・出演者…松井由利夫（作詞家）、伊藤雪彦（作曲家）、三代沙也可（歌手） 進行：柳亭燕路

HIT CHART DATA

1999年10月度(99年9月21日~99年10月20日)

レコード正味売上げに基づく当協会オフィシャルデータ。

順位	タイトル	アーティスト	発売日	発売元
----	------	--------	-----	-----

■邦楽・洋楽合同シングル BEST7

1.	雨のMelody/to Heart	KinKi Kids	1999.10.06	JE
2.	Come close to me	上原多香子	1999.09.29	TF
3.	友達の唄	ゆず	1999.09.29	SN
4.	天使のため息	竹内まりや	1999.09.22	WJ
5.	月虹-GEKKOH-	T.M.R.e	1999.09.22	AR
6.	LOVEマシーン	モーニング娘。	1999.09.09	EP
7.	ふたりぼっち	Hysteria Blue	1999.10.20	SME

■洋楽シングル BEST7

1.	ハートブレイカー	マライア・キャリー	1999.09.22	SME
2.	ニューヨーク・シティ・ボーイ	ペット・ショップ・ボーイズ	1999.09.22	TO
3.	ワーキング・フォー・ヴァケーション	チボ・マット	1999.09.29	WJ
4.	ライフ	DES'REE	1999.06.10	SME
5.	マンボNo.5	ルー・ベガ	1999.09.22	BMG
6.	Eyes On Me featured in Final Fantasy VIII	フェイ・ウォン	1999.02.24	TO
7.	スーパーファンタスティック	MR. BIG	1999.09.15	EW

■邦楽・洋楽合同アルバム BEST7

1.	CRUISE RECORD 1995-2000	globe	1999.09.22	AVT
2.	HEAVY GAUGE	GLAY	1999.10.20	PC
3.	MAXIMUM COLLECTION	MAX	1999.09.29	AVT
4.	ゆずえん	ゆず	1999.10.14	SN
5.	BEST OF	エリック・クラプトン	1999.09.29	WJ
6.	OUR DAYS	鈴木あみ	1999.09.22	SME
7.	SAD BLOOD ROCK'N'ROLL	SADS	1999.09.22	TO

■クラシックアルバム BEST7

1.	奇蹟のカンパネラ	フジ子・ヘミング	1999.08.25	V
2.	コダーイ：無伴奏チェロ・ソナタ作品8	ヨーヨー・マ	1999.09.22	SME
3.	クラシカル・エバー1	3大テナー、マリア・カラス他	1999.06.23	TO
4.	DAISHINデビュー!	櫻本大進	1999.09.22	SME
5.	「来たるべきもの」~Lo Que Vendra	小松亮太	1999.10.01	SME
6.	ヨーヨー・マ ベスト・アルバム	ヨーヨー・マ	1998.10.01	SME
7.	カヴァティエーナ	村治佳織	1998.11.21	V

■洋楽アルバム BEST7

1.	BEST OF	エリック・クラプトン	1999.09.29	WJ
2.	クリスティーナ・アギレラ	クリスティーナ・アギレラ	1999.09.22	BMG
3.	ブラン・ニュー・デイ	スティング	1999.09.22	UM
4.	フィールザ・ファイア〜スティーヴィーワンダーバードコレクション	スティーヴィー・ワンダー	1999.09.29	UM
5.	ダンスマニアX4	ペット・ショップ・ボーイズ他	1999.10.14	TO
6.	ザ・フラジャイル	ナイン・インチ・ネイルズ	1999.09.23	UV
7.	ナイトライフ	ペット・ショップ・ボーイズ	1999.10.08	TO

※AL：アルファミュージック/AO：アムムラ・オータウン・レコード/AR：アンティノスレコード/AVT：エイベックス/BG：ビーグラムレコーズ/BM：ルームスレコーズ/BME：バンダイ・ミュージックエンタテインメント/BMG：BMGファンハウス/C：日本コロムビア/CA：カナリー企画/CR：日本クラウン/CT：カッティング・エッジ/EP：ゼティマ/EW：イーストウエスト・ジャパン/FH：ファンハウス/FL：フォーライフレコード/JE：ジャニーズ・エンタテインメント/JF：J-FRIENDS P./K：キングレコード/KT：キティエンタープライズ/ME：メルダック/MME：マーキュリー・ミュージックエンタテインメント/PC：ポニーキャニオン/PI：パイオニアLDC/PO：ポリドール/PS：ポリスター/PZ：ピザ・オブ・デス・レコーズ/QT：バルコ/RO：ロックイットレコード/SME：ソニー・ミュージックエンタテインメント/SN：SEHNA & CO./TA：ニュートーラス/TDK：TDKコア/TE：テイチク/TF：トイズ・ファクトリー/TJC：徳間ジャパンコミュニケーションズ/TO：東芝EMI/UM：ユニバーサルミュージック/UV：ユニバーサルビクター/V：ビクターエンタテインメント/VAP：バップ/VF：ヴェルファーレ/WJ：ワーナーミュージック・ジャパン/XR：ゼロ・コーポレーション/ZA：ザインレコーズ

GOLD ALBUM他 認定作品 1999年10月度(99年9月21日～99年10月20日)

■アルバム (21作品)

【邦 楽】

●3ミリオン

ZARD BEST The Single Collection～軌跡～/
ZARD/1999.05.28 (BG)

●2ミリオン

CRUISE RECORD 1995-2000/globe/
1999.09.22 (AVT)

HEAVY GAUGE/GLAY/1999.10.20 (PC)

●トリプル・プラチナ

GOLDEN BEST/井上陽水/1999.07.28 (FL)

●ミリオン

MAXIMUM COLLECTION/MAX/1999.09.29
(AVT)

●ダブル・プラチナ

ゆずえん/ゆず/1999.10.14 (SN)

●プラチナ

GARDEN/ Sugar Soul feat. Kenji/
1999.09.08 (WJ)

OUR DAYS/鈴木あみ/1999.09.29 (SME)

●ゴールド

SWEET/スガシカオ/1999.09.08 (KT)

SAD BLOOD ROCK'N'ROLL/ SADS/
1999.09.22 (TO)

thermo plastic/hitomi/1999.10.13 (AVT)

【洋 楽】

●クワドラプル・プラチナ

BEST OF/ エリック・クラプトン/
1999.09.29 (WJ)

●トリプル・プラチナ

ビリー・ザ・ベスト/ビリー・ジョエル/
1989.11.22 (SME)

●プラチナ

アメリカーナ/OFFSPRING/1998.11.18
(SME)

イエロー・サブマリンーソングトラッカー/ザ・ビ

ートルズ/1999.09.13 (TO)

●ゴールド

グレイテスト・ヒッツ/ホワイト・スネイク/
1994.07.21 (SME)

ライブ&レア/レイジ・アゲンスト・ザ・マシー
ン/1997.07.16 (SME)

ブラン・ニュー・デイ/スティング/
1999.09.22 (UM)

クリスティーナ・アギレラ/クリスティーナ・アギ
レラ/1999.09.22 (BMG)

フィール・ザ・ファイアー スティーヴィー・ワン
ダー・バラード・コレクション/スティーヴィー・
ワンダー/1999.09.29 (UM)

ダンスマニアX4/ペットショップ・ボーイズ他/
1999.10.20 (TO)

■シングル (10作品)

【邦 楽】

●ダブル・プラチナ

LOVEマシーン/モーニング娘。/1999.09.09
(EP)

●プラチナ

雨のMelody/to Heart/ KinKi Kids/
1999.10.06 (JE)

Come close to me/上原多香子/1999.09.29
(TF)

●ゴールド

Squall/松本英子/1999.09.08 (BMG)

月虹-GEKKOH-/T.M.R-e/1999.09.22
(AR)

天使のため息/竹内まりや/1999.09.22 (WJ)

友達の唄/ゆず/1999.09.29 (SN)

SANDY/SADS/1999.10.14 (TO)

ふたりぼっち/Hysteric Blue/1999.10.20
(SME)

We can't stop the music/DA PUMP/
1999.10.20 (AVT)

IFPI-FLAPFの合併

IFPI（国際レコード産業連盟）とFLAPF（ラテンアメリカレコード協会）の双方の理事会で、両者が2000年1月から合併し、同日からFLAPFはIFPIラテンアメリカと改称することが承認されました。

今回の合併は両団体にとって倫理的かつ切望されるステップであり、世界のレコード産業を代表する能力を高めることとなります。また、この合併は、レコード業界にとって、政治的、技術的及び規制に関する最重要課題への世界的に統一されたアプローチに重要なことです。過去2年間、両者はより緊密な調整を行ってきました。両者間の緊密度は、ラテンアメリカとアジア間の海賊版流通の爆発的増加により加速されました。今回の決断は両者にとって実りの多いものです。IFPIはFLAPFから新しい専門知識と原資と国際的な信頼を得られると同時に、FLAPFはより積極的にIFPIの国際戦略を取り込むことで恩恵を得られます。

FLAPF

1961年設立、現在、中南米の17か国が加盟。当初は、同域内での著作権保護を促進し、ライセンスのルールを明確にすることを目的としていた。1970年代には多国籍レコード産業が出現したことから、FLAPFが各国間の調整役を務めることが多くなった。1980年代には、FLAPFとIFPIは海賊対策を通じて緊密な関係を築いていた。89年には独立した海賊対策部を設置した。その後、RIAAと協調しながら、NAFTA交渉で政府に働きかけ成果を上げた。92年には、FLAPFからIFPI中央理事会メンバーを迎えるなど、両者のつながりは強くなり、海賊対策でもIFPIの海賊対策モデルを使用して手入れを行うなど努力していたが、海賊版の割合を減らす迄には至らなかった。98年には海賊対策執行部レベルでは両者の統合が行われ、IFPIの調整でアジア、ラテンアメリカ間の海賊事件に対応している。

(IFPI プレスリリース)

並行輸入保護（EUと英国の最新情報）

この6ヶ月間にヨーロッパでは、レコード産業に歓迎される進展が見られました。

6月21日、EU域内市場会議（IMC）は商標の国際消尽問題について再度議論しましたが、決定的な結論を出せませんでした。その代わりに、IMCは多くの分野でより深遠な研究が必要になることを確認しました。研究が必要になる分野は、権利消尽の枠組みで起こりうる変化（価格、海賊版対策活動、欧州産業の競争力、技術革新への投資、雇用など）の影響等です。委員会は加盟国間の議論のため、以下の質問についても書類を用意することとしました。

- (1) 国内の商標システムとEC内での商標システムの区別
 - (2) 異なる知的財産或いは異なる産業分野間での消尽の枠組みの可能な区別
 - (3) 2国間、多国間をベースとした国際消尽導入についてEUが貿易相手国と合意に至る可能性。
- これはEUが一方向的に国際消尽を導入してはならないという英国の立場に沿ったもの。

委員会はまだ様々な作業書類を作成中で、国際消尽の問題は次回のIMC（12/7）まで議論される見通しはありません。6月29日、英国貿易・産業選択委員会はグレー・ゾーンの輸入や海賊版についてのレポートを公表しました。その中で、国際消尽は商標について検討され得ると結論づけています。しかし、報告の中で、英国レコード産業の特性とニーズであることを十分に認めています。それは、レコード産業のような特定分野を商標に関する国際消尽から除外しようとする明確な傾向を表しています。9月、英国政府は貿易・産業委員会の結論を100%支持することを発表しました。英国政府は、事実、著作権に関する消尽の枠組みの変更を求める強い要望がないことを認めています。IFPIは、その経済的な重要性と新しいアーティストやレパートリーへの投資と開発の礎として、域内消尽の重要な役割の認識をととも歓迎しています。

(IFPIネットワーク 99/11)

会議メモ（主なもの）

(11月1日～11月30日)

11・1 調査統計部会	11・9 第2回シングル検討プロジェクト	11・19 MM-WG会議
11・2 廃盤セールプロジェクト	11・10 洋楽部会	11・22 法制委員会
11・4 マーケティング戦略会議	11・11 著作権部会	11・24 デジタル情報委員会
日本GD大賞実行委員会幹事会	11・15 宣伝部会	情報システム部会
11・5 MM-WG会議	11・16 営業部会	洋楽宣伝専門部会
11・9 定款改正委員会	11・17 業務委員会	経理部会幹事会
	ビデオ部会	11・25 調査統計部会
	11・18 インターネット部会	11・26 理事会
	洋楽企画専門部会	11・30 技術委員会



レコード生産実績

1999年10月度(99年10月1日～99年10月31日)

社団法人 日本レコード協会

1999年10月レコード生産実績(I)

数量：千枚・巻

単位

金額：百万円

表1. オーディオレコード

	10月実績							1999年(1月～10月)累計						
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比		
C	8センチ	邦	4,569	12	42	2,915	6	42	78,777	21	59	49,112	10	59
		洋	99	0	161	54	0	141	644	0	68	364	0	67
		計	4,668	12	43	2,969	6	43	79,420	22	59	49,476	11	59
D	12センチ	邦	25,480	64	131	34,382	68	121	205,167	56	123	307,683	66	108
		洋	7,738	20	80	11,700	23	81	64,990	18	89	96,562	21	90
		計	33,218	84	114	46,082	91	107	270,157	74	113	404,245	86	104
D	小計	邦	30,049	76	99	37,296	73	106	283,944	77	94	356,795	76	97
		洋	7,838	20	80	11,754	23	81	65,633	18	89	96,926	21	90
		計	37,886	96	95	49,050	96	98	349,577	95	93	453,721	97	96
アナログディスク	邦	251	1	262	312	1	328	2,158	1	353	2,494	1	343	
	洋	34	0	152	46	0	183	384	0	140	519	0	132	
	計	285	1	241	358	1	298	2,542	1	287	3,013	1	269	
合計	邦	30,300	76	100	37,609	74	106	286,102	78	95	359,289	77	98	
	洋	7,871	20	80	11,800	23	81	66,017	18	89	97,445	21	90	
	計	38,171	96	95	49,408	97	99	352,119	96	94	456,734	97	96	
カセットテープ	邦	1,448	4	63	1,501	3	65	14,292	4	79	11,975	3	80	
	洋	0	0	2	1	0	4	76	0	57	73	0	50	
	計	1,448	4	62	1,503	3	65	14,368	4	79	12,048	3	80	
総合計	邦	31,747	80	97	39,110	77	104	300,394	82	94	371,264	79	97	
	洋	7,872	20	80	11,801	23	81	66,094	18	89	97,519	21	90	
	計	39,619	100	93	50,911	100	97	366,488	100	93	468,782	100	96	

表2. ビデオレコード

	10月実績						1999年(1月～10月)累計					
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
ディスク	1,068	36	108	2,835	32	115	8,605	32	98	20,649	24	90
テープ	1,938	64	100	5,928	68	88	18,311	68	97	64,205	76	92
合計	3,006	100	102	8,762	100	95	26,915	100	97	84,854	100	91

表3. オーディオ/ビデオ合計

	10月実績						1999年(1月～10月)累計					
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
オーディオ	39,619	93	93	50,911	85	97	366,488	93	93	468,782	85	96
ビデオ	3,006	7	102	8,762	15	95	26,915	7	97	84,854	15	91
合計	42,625	100	94	59,674	100	97	393,403	100	93	553,636	100	95

<参考>表4. 複合型CD(CD-G、CD-I、CD-ROMなど)

	10月実績						1999年(1月～10月)累計					
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
邦盤	12,356	100	99	1,511	100	85	124,009	100	99	17,886	100	87
洋盤	0	0	0	0	0	0	6	0	15	16	0	12
合計	12,356	100	99	1,511	100	85	124,014	100	99	17,903	100	87

備考 1. 本年実績は、会員会社「21社」の集計である。当会員社が受託した非会員社からの販売委託分を含む
 2. 単位未満四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある。

レコード生産の推移

本号は、オーディオレコードの生産数量と金額を種別に紹介します。

表1 オーディオレコード種類別生産数量の推移

単位:千枚・巻

西 暦	17センチ	25・30センチ	8センチCD	12センチCD	カセット	カートリッジ	オープンリール	合計
1971(昭46)	91,867	58,444			5,837	14,844	297	171,289
1972(昭47)	90,913	61,137			6,770	13,535	239	172,594
1973(昭48)	93,741	78,520			10,591	15,606	242	198,700
1974(昭49)	97,901	83,758			11,154	12,790	111	205,714
1975(昭50)	92,706	84,665			14,090	12,160	44	203,665
1976(昭51)	105,091	94,661			20,187	11,388	14	231,341
1977(昭52)	91,655	92,408			25,612	9,055	15	218,745
1978(昭53)	103,084	93,144			34,855	11,699	6	242,788
1979(昭54)	110,338	88,466			46,220	15,087	2	260,113
1980(昭55)	104,360	90,583			57,107	22,858	0	274,908
1981(昭56)	87,685	80,849			60,627	26,152		255,313
1982(昭57)	78,736	73,180			61,115	36,489		249,520
1983(昭58)	79,218	69,518			64,618	33,113		246,467
1984(昭59)	71,128	68,211		6,365	60,917	21,973		228,595
1985(昭60)	62,138	62,376		20,638	60,694	13,826		219,673
1986(昭61)	60,566	45,483		45,120	62,517	8,355		222,041
1987(昭62)	46,250	27,745		64,992	68,925	5,893		213,804
1988(昭63)	27,420	12,044	25,557	89,980	76,074	3,415		234,490
1989(平 1)	7,680	2,376	47,094	143,424	72,301	1,666		274,542
1990(平 2)	1,606	726	61,820	169,129	56,541	672		290,494
1991(平 3)	96	886	88,776	210,497	44,579	254		345,087
1992(平 4)	31	982	110,559	222,671	38,853	47		373,142
1993(平 5)	76	766	153,795	227,756	35,333	4		417,730
1994(平 6)	620		138,271	241,699	29,860	0		410,450
1995(平 7)	534		164,581	275,369	25,031			465,515
1996(平 8)	944		166,294	282,556	22,512			472,305
1997(平 9)	1,034		167,827	289,313	22,534			480,706
1998(平10)	1,186		154,260	302,913	21,818			480,177

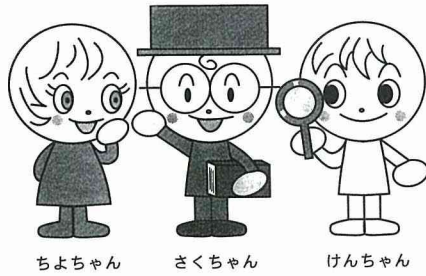
表2 オーディオレコード種類別生産金額の推移

単位:百万円

西 暦	17センチ	25・30センチ	8センチCD	12センチCD	カセット	カートリッジ	オープンリール	合計
1971(昭46)	25,747	50,830			4,879	30,434	352	112,242
1972(昭47)	27,808	55,474			5,628	26,662	303	115,876
1973(昭48)	32,241	75,310			10,007	33,475	280	151,314
1974(昭49)	34,420	98,005			14,542	28,816	177	175,960
1975(昭50)	32,362	104,442			20,997	26,674	78	184,883
1976(昭51)	39,899	123,663			33,402	21,383	35	218,381
1977(昭52)	37,240	126,299			44,723	14,334	42	222,638
1978(昭53)	42,080	130,128			61,371	12,107	18	245,704
1979(昭54)	45,412	125,987			76,993	14,191	6	262,589
1980(昭55)	44,973	136,265			90,341	21,265	0	292,844
1981(昭56)	40,957	131,459			91,718	24,529		288,654
1982(昭57)	36,973	118,318			90,594	35,152		281,037
1983(昭58)	38,090	114,592			96,691	32,290		281,663
1984(昭59)	34,253	112,317		14,439	91,406	21,697		274,111
1985(昭60)	30,575	99,671		47,931	89,453	13,708		281,337
1986(昭61)	29,056	74,249		97,912	89,220	8,482		298,920
1987(昭62)	22,403	47,529		139,016	96,295	6,340		311,584
1988(昭63)	13,253	19,954	18,825	186,423	100,812	3,680		342,947
1989(平 1)	3,507	3,635	29,756	257,005	87,752	1,678		383,332
1990(平 2)	780	1,075	37,556	285,793	61,872	693		387,770
1991(平 3)	43	1,441	53,967	345,829	47,714	259		449,252
1992(平 4)	17	1,835	69,064	369,467	37,819	45		478,247
1993(平 5)	43	1,479	97,710	382,754	31,689	4		513,679
1994(平 6)	1,081		88,371	403,870	25,924	0		519,246
1995(平 7)	881		100,565	450,604	21,982			574,031
1996(平 8)	1,312		104,418	458,164	19,969			583,862
1997(平 9)	1,369		103,891	463,187	19,573			588,019
1998(平10)	1,484		95,478	492,400	18,132			607,494

備考1. 数値は、四捨五入により内訳と合計が一致しない場合があります。

2. アナログディスクは、'94年から17センチと25・30センチの区分がなくなりました。



ちよちゃん

さくちゃん

けんちゃん

著作権法100年

copyright law centennial anniversary

RIA
Recording Industry Association of Japan

1999年12月号

発行人 池口 頌夫

編集人 木村 三郎

発行日 1999年12月10日

発行 社団法人日本レコード協会

〒104-0061 東京都中央区銀座7-16-3 日鐵木挽ビル2F

TEL.03-3541-4411 (代)

FAX.03-3541-4460 (代)

URL:<http://www.jmusic.ne.jp/>